

レミケード(5mg/kg)療法

【免疫内科】11【ベーチェット病・クローン病・潰瘍性大腸炎・難治性網膜ブドウ膜炎・強直性脊椎炎】

(第 コース目)

*網かけ部分は必須記入事項

診療科:	病棟:
医師名:	印

身長:	cm	体重:	kg
体表面積:	m ²	Cr:	mg/dL

■レジメン

下記が1コースの投与スケジュール:初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間(脊椎炎は6~8週間)の間隔で投与

Day	1	~
施行日	/	
レミケード	↓	

■投与順序 ※マークは同タイミング投与薬あり

滴下順	投与時間	
①	10時	ポラミン注 5mg 生食 100mL 30分
②	10時30分	●レミケード【 】mg 生食 500mL 投与速度は「■注意事項」参照
③	12時30分	生食 50mL 10分フラッシュ

■投与量

※投与量の参考

薬剤名	標準投与量
レミケード	5mg/kg mg/Body

■注意・確認事項

- 初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間(脊椎炎は6~8週間)の間隔で投与。
- 6週の投与以後、効果不十分又は効果が減弱した場合には、
ベーチェット病:10mg/kgへ増量可能 クローン病:投与量の増量や投与間隔の短縮が可能
- 点滴セットはフィルター付き輸液ルートを使用すること。
- infusion reactionの発現に注意すること(発熱・血圧低下・アナフィラキシー様症状など)
- 輸液ポンプ使用。
投与開始の30分間は緩徐に投与し、アナフィラキシー様症状がないことを確認後、点滴速度を速める。
《レミケードの投与速度》
30mL/hrで開始 ⇒ 30分後 300mL/hrへ (約2時間で投与)
- 6週の投与以後、それまでの投与でinfusion reactionが認められなければ、点滴速度を上げて
点滴時間を短縮することができる。(※平均点滴速度は1時間当たり5mg/kgを超えないこと)

■溶解時の注意事項

- バイアルを回転させながら緩やかに溶解し、溶解後は5分静置すること
- 注射針は22Gを使用すること

入力 薬剤師	看護師	看護師